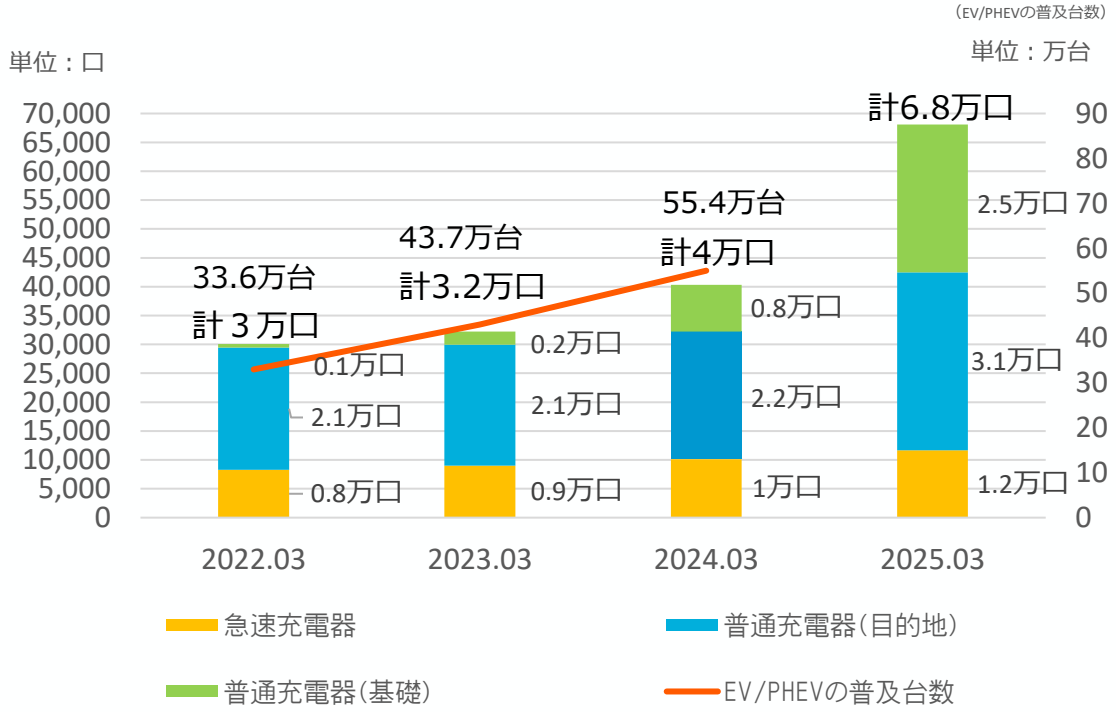
充電インフラの整備に関する取組

- 電気自動車等の車両の普及と充電インフラの整備は、両輪で進めていくことが必要。2023年10月に**「充電インフラ整備促進に向けた指針」を策定**し、**目標をこれまでの倍となる30万口**とし、整備を加速しているところ。

インフラ整備の状況

✓ 現在、整備されている充電器は**約６.８万口※１（急速約１.2万口、普通約５.6万口）【2024年度末時点】**

✓ 2023年度末から2024年度末で**約2.8万口の増加。**



✓ 急速充電器については、高出力化（90ｋW以上）が進展。
引き続き、3万口達成に向け整備を促進。

✓ 普通充電器（基礎）については、集合住宅（賃貸）を中心に整備が進展。
合意形成の必要な集合住宅（分譲）の整備を促進していく。

✓ 普通充電器（目的地）については、商業施設・宿泊施設等で整備が進展。

取組の方向性

○ユーザーの利便性向上

✓ 2030年に**充電インフラ30万口の整備（公共用の急速充電器３万口を含む）**

✓ 高速では90kW150kWを設置するなど、**充電器を高出力化し、充電時間を短縮**し、ユーザーにとって、利便性の高まる充電インフラを整備

○充電事業の自立化・高度化

✓ 費用対効果の高い案件を優先（≒入札制の実施）することで、**費用低減を促進し、充電事業の自立化を目指す**。

○社会全体の負担軽減

✓ 充電した電力量（kWh）に応じた課金について、2025年度からのサービスの実現を目指し、ユーザー・事業者双方にとってより**持続的な料金制度**を実現し、**充電インフラの運用に伴う負担の低減を図る**。

○R6年度補正予算・R7年度当初予算

✓ **R6年度補正360億円、R7年度当初100億円の計460億円を措置**。（V2H・充てんインフラ含む。）

出典：EV・PHEV普及台数：一般社団法人次世代自動車振興センター公表資料を基に作成
：急速充電器、普通充電器（目的地）：ゼンリン、充電事業者の提供データを基に経産省推計
：普通充電器（基礎）：集合住宅、月極駐車場、事務所・工場等における経産省補助実績の累計
※１ 2025年5月末時点で、ゼンリン、充電事業者のデータを基に経産省が推計したもの。
今後見直しにより変動する可能性もある。

（参考）公共用急速充電器の場所別設置数･出力の変化（2025年３月時点）

- 設置数のうち約９割の把握が可能なe-mobility powerのデータによると、急速充電器の数はこの1年間で**約700口増加。50kW未満が1,400口程度減少した一方で、90kW以上は1000口以上増加した。**
- **割合を見ても前年度から50kW未満が17%減少、90kW以上のものが10%増えて全体の3割程度となるなど、高出力化が進んでいる。**
- **特に、ディーラー、高速道路においては、150kWの充電器の整備が進み、それぞれ120口以上整備された。**

	総数 (対前年増減数)	割合	出力ごと(kW)　※1口あたり最大出力　（前年度末からの増減数）			
			~50未満	50~90未満	90~150未満	150
自動車ディーラー	3,743 (-2)	38%	695 (-515)	2,225 (+233)	665 (+151)	158 (+129)
コンビニ	1,453 (+178)	15%	268 (-432)	409 (+268)	732 (+298)	44 (+44)
高速道路※	892 (+207)	9%	123 (-92)	173 (+3)	460 (+172)	136 (+124)
道の駅	740 (-53)	8%	461 (-140)	235 (+59)	44 (+28)	0
商業施設	912 (+51)	9%	173 (-101)	517 (+86)	218 (+62)	4 (+4)
宿泊施設	80 (±0)	1%	63 (-3)	13 (+2)	4 (+1)	0
ガソリンスタンド	744 (+304)	8%	26 (-3)	668 (+299)	48 (+6)	2 (+2)
自治体設備	552 (+23)	6%	293 (-40)	229 (+40)	30 (+23)	0
その他	681 (-11)	7%	284 (-51)	242 (+34)	138 (+1)	17 (+5)
合計	9,797 (+697)	100%	2,386 (-1,377)	4,711 (+1,024)	2,339 (+742)	361 (+308)
	割合		24% (-17%)	48% (+7%)	24% (+6%)	4% (+4%)

※ＳＡ・ＰＡ及びハイウェイオアシスを含む。

出典：e-mobility powerの充電スポット一覧を基に作成。（ ）内の数値は、2024年3月からの増減数

高速道路における充電器設置状況

- SA・PA※において、**2024年度末時点で約900口**が整備済（対前年度比＋207口）。

※高速道路6社及び公社有料道路等含む

- 2024年度には、高出力化、複数口化、が進展。**90kW以上が約２倍の口数（同＋99%）となり、全体に占める割合も、44%から67%**となった。2025年度には約1100口を計画。

種別		急速				合計
1口あたり最大出力(kW)		50未満	50~90未満	90~150未満	150	
口数(2023年度末)	口数	215	170	288	12	685
	(割合)	(31%)	(25%)	(42%)	(2%)	(100%)
口数(2024年度末)	口数	123	173	460	136	892
	(割合)	(14%)	(19%)	(52%)	(15%)	(100%)

出典：e-Mobility Powerの資料を基に作成

- 東北道 蓮田SA（上）
  6口マルチ充電器・1口最大90kW

- 伊勢湾岸道 湾岸長島PA（上）
  2口マルチ充電器・1口最大150kW

- 中央自動車道　八ヶ岳PA（下）
  4口マルチ充電器・1口最大150kW